

# 加茂里山通信

平成29年  
新年号

発行 市原商工会議所  
加茂里山通信編集部  
編集長 征矢真造

2014年に開催された「中房総国際芸術祭」はアート×ミックスが3年の時を経て、「いちほらアート×ミックス2017」として4月8日(土)から5月14日(日)までの37日間、加茂地区を中心に開催されます。前回は「中房総」と「国際」の文字がはずされ、期間の短縮と予算削減による規模の縮小がなされましたが、ふたたび芸術祭が始まることとしています。主催する市原市の今回の事業の狙いは3つ。

「地域や関係団体と連携した取り組みをさらに充実させることにより、芸術祭全体の魅力を向上させ、市内外から多くの人々を呼び込むイベントにする」こと  
「市民による制作も展示への参加、地域の伝統行事とのタイアップ、地域の農産物やお土産の販売、周辺飲食店や観光施設との相互誘客などによる交流人口の増加や消費の拡大につなげる」こと



月出工舎2月にて

「地域や関係団体と連携した取り組みをさらに充実させることにより、芸術祭全体の魅力を向上させ、市内外から多くの人々を呼び込むイベントにする」こと  
「市民による制作も展示への参加、地域の伝統行事とのタイアップ、地域の農産物やお土産の販売、周辺飲食店や観光施設との相互誘客などによる交流人口の増加や消費の拡大につなげる」こと

## いちほらアート×ミックス2017

アートの効果を様々な分野へ波及させることにより、市原市の資源や特徴を活かした観光地づくり、地域振興・経済振興にむすびつけること」です。そしてそのための具体策として、「バスポートを市民へ優待販売、児童へ無料配布して家族で会場を訪れ鑑賞してもらうこと」

市内小中学生との連携により、子供達が作品制作へ参加。ボランティアの菜の花プレーヤーズとして、会場の作品制作や運営への参加。地域プロジェクト会場(旧白鳥小)等における市民等による各種作品の展示

「農産物販売、農家レストラン運営、ジビエ料理提供、いちほら国府ブランド品販売。アート会場内だけでなく、周辺の観光施設や飲食店等と相互が連携した誘客などを計っています。アート祭の準備はすでに始まっています。アート

### 始動!

「農産物販売、農家レストラン運営、ジビエ料理提供、いちほら国府ブランド品販売。アート会場内だけでなく、周辺の観光施設や飲食店等と相互が連携した誘客などを計っています。アート祭の準備はすでに始まっています。アート



昔の作品の一つ(制作中)

「農産物販売、農家レストラン運営、ジビエ料理提供、いちほら国府ブランド品販売。アート会場内だけでなく、周辺の観光施設や飲食店等と相互が連携した誘客などを計っています。アート祭の準備はすでに始まっています。アート

ています。10月29日の説明会の後、11月に入り旧里見小のIAAESで花いっぱい活動が始まり、11月末から12月にかけて開発好明さんと渡辺泰子さんの作品制作も始まりました。この様子は菜の花プレーヤーズのウェブサイトに詳しく載っています。



1品持ち寄りでごんなに

12月17日には月出工舎で岩間賢さんの菜の花プレーヤーズ向けの説明会がありました。プロジェクトで写真を見ながら、これまでの自分と自分の作品を語り、月出工舎に関わる芸術家たちとの出会いやこれからのことを2時間かけて説明してくれました。一人の作家の背景を知る貴重な時間でした。自分の表現したいことを自分の表現方法で表現する。表現したいから表現する。作家とすればごく当たり前のことを、いくつかの写真から強く感じました。お昼には一品持ち寄りの昼食会ということで、それぞれの思いつきでいろいろなのが並びました。話が弾み午後からの作業は2時近くからになってしまいましたが、白鳥公民館から前回のアートミックスで使用した照明器具や客席用の木材、アルミ加工材などを月出に移動しました。1月からはいよいよ作品制作の準備、会場整備、会期中に行うワークショップの練習などがはじまります。準備は着々と進められています。(征矢里山通信員)

秋は文化運動会、冬は天体観測、春は花見と多彩に。全て持ち込み可とする。子供の頃の花火を思い出した。子供会の花火大会と称して、花火を大量に買って来ては、家の前の畦道で大勢の大人・子供が楽しんでた。文化運動会は地区対抗のなんでも有りの競い合いとなり、比較出来ればなんでも種目となってしまう。弁当のおかずも競技種目と成りえる。天体観測は、夜空の星を見上げて星座の物語を聞きながら、流れ星を数える。何も考えず、空に有るものは全て観測対象とする。飛行機、人工衛星も含まれる。花見は、校庭や道に植えた花々を見ながら、次はどこに何を植えるようか皆で話合っつて過す。小湊鉄道の列車とは交わらない、地域のフラワールードの構想が広がる。月出まで行ってしまうほど。サイクリングをするには坂が多いが、ゆつくりと交通量の少ない場所を走るのも楽しい。たまには頭の上も注意した方がいい。サルの群れが移動している事もある。夕方になればイノシシに遭遇。人間と獣の住処が逆転して、フェンスの中で生活している自分達がいる。夜になれば、更に獣たちの自由なスペースが広がっていく。そんなのんびりした時を過ごす時期は、そう遠くないだろう。(征矢里山通信員)

### 加茂の初夢 こんな夢を見た

オープンスペース始動。年4回ほど自由に使える解放された校舎。自由と言っても、面倒な手続き書類は提出する。今は小学校が近くに無いので、皆が寄り合っで行事することも無く季節感が無い。という事で、

秋は文化運動会、冬は天体観測、春は花見と多彩に。全て持ち込み可とする。子供の頃の花火を思い出した。子供会の花火大会と称して、花火を大量に買って来ては、家の前の畦道で大勢の大人・子供が楽しんでた。文化運動会は地区対抗のなんでも有りの競い合いとなり、比較出来ればなんでも種目となってしまう。弁当のおかずも競技種目と成りえる。天体観測は、夜空の星を見上げて星座の物語を聞きながら、流れ星を数える。何も考えず、空に有るものは全て観測対象とする。飛行機、人工衛星も含まれる。花見は、校庭や道に植えた花々を見ながら、次はどこに何を植えるようか皆で話合っつて過す。小湊鉄道の列車とは交わらない、地域のフラワールードの構想が広がる。月出まで行ってしまうほど。サイクリングをするには坂が多いが、ゆつくりと交通量の少ない場所を走るのも楽しい。たまには頭の上も注意した方がいい。サルの群れが移動している事もある。夕方になればイノシシに遭遇。人間と獣の住処が逆転して、フェンスの中で生活している自分達がいる。夜になれば、更に獣たちの自由なスペースが広がっていく。そんなのんびりした時を過ごす時期は、そう遠くないだろう。(征矢里山通信員)



穏やかに気持ちのいい正月でした

### 第十一回町会紹介 小谷田町会

小谷田町会は、高滝ダム湖に面し、高滝神社から見ると対岸に位置しております。町会には、古くから伝承されている祭詞に関する制度がありますので紹介します。それは「若役」という

制度で「若役頭一人」「子役二人」で構成されます。現在、残されている若役の引継書は、昭和二十六年からのものですが、当然その前から若役制度は行われていました。任期は一年で、先祖代々多くの成人男性がこの役を担ってききました。若役が担う年中祭詞行事は、四月一日が天津日神社(浅間様)祭礼、七月一日が八坂神社(天王様)祭礼、十月の高滝神社祭礼・大山祇神社祭礼です。それぞれの祭礼時には、注連縄、紙垂(しめ)、御幣を用意し、祠(ほこら)の清掃後、神ともに納めます。また、十一月には町会役員との連携の下、天津日神社参道の清掃を実施しています。

これら行事の中で、一番力を入れる行事が高滝神社の祭礼関係です。御神輿の担ぎ手の手配から始まり、祭当日は朝から自治会館にて担ぎ手の接待を行い、夕方には労をねぎらう宴を設けます。そのお陰もあり、小谷田町会では、御神輿の担ぎ手を毎年十数人確保できる状況にあります。



参道清掃に集まった町会のみなさん

このような若役制度ですが、若い人にとっては、地元のことを知るいい機会にもなっており、「え、天王様ってどこにあるの?」と言っていた若者が、一年間子役を務めると、地区の祭詞関係に明るくなり、また年代を超えた町会の人達と親しくなることができ、町会全体の和にも寄与しています。最近では、若い人の人数も少なくなり若役制度の維持も厳しくなっておりますが、可能な限り続けることが、先祖に対する今の我々の努めかとも考えております。(小谷田町会長 中村直樹)

# 地域芸術祭のこと

私たちの知る「いちほらアート×ミックス」も含めて、今やかなりの数の地域芸術祭が行われるようになってきました。これは先駆的な「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」が開催ごとに注目を浴び、「瀬戸内国際芸術祭」の成功が、地域の活性化と結びつけて考えられるようになったからだと思います。昨年は「みちのおく芸術祭」「あいちトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭 秋会期」「茨城県北芸術祭」「さいたまトリエンナーレ」が行われ、今年は北アルプス国際芸術祭「Reborn-Art-Festival」（宮城県牡鹿半島）「奥能登国際芸術祭」「横浜トリエンナーレ」が控えています。その目的は似ていますが、5年前の東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県牡鹿半島での芸術祭「リポーンアート フェスティバル」では「地域とアーティストが協働してこの地域の魅力を改めて発見し、広く発信することで、多くの人々がこの地域のことを知り、そして訪れるでしょう。ここで生まれる新しいつながりから、地域復興や振興につながる様々な循環を生み出すことがこのお祭りの目的です」と述べています。また、茨城県北芸術祭の総合ディレクターの南条史生氏は「現代のアートは、新しいものの見方、考え方の宝庫であり、現代のアートを見ると、こんなことも可能なのか、こんなやり方もあるのか、という驚きを体験できるだろう。…物事の意味を交えること、それはアートが人々にもたらすことが出来る、小さいけれども大きな変化である。」と述べています。

私たちの経験した「いちほらアート×ミックス」で確実に意識が変わったと思えることが一つあります。



も「王」  
るより  
りすす  
たかぶ  
間は知  
住む人  
田舎に

## 里山からの発信

11月の半ばごろに友人と茨城県北芸術祭を見に行きました。県北芸術祭は海側と山側で開催されていきましたが、私たちは山側の常陸太田市鯨ヶ丘エリアと常陸大宮市の旧美和中学校を中心に見て回りました。面白かったのは鯨ヶ丘商店街全体を使つての原高史さんの作品と鯨ヶ丘商店街そのものでした。鯨ヶ丘商店街は歴史的な建造物を含め、レトロな建物が並びそれだけでも魅力的なのですが、商店街の窓をピンクのパネルで埋め尽くし、そこに住む人々の想いや記憶をイラストともに入れた異彩を放っていました。ピンクのパネル自体は共通ですが、

### 茨城県北芸術祭を見て

すべての窓の文章は異なります。一つ一つの窓に想いが込められこれを読んだだけでも飽きないのです。作家が一人一人にインタビューを行い、想いを引き出し、



梅津会館（旧市役所）



様は裸だ」とはつきり述べ人間が多いので、前回の芸術祭の折、湖に浮かぶ飛行機や、モグラの格好をして地下に潜つて放送してい

さらにそれを表示することに商店街の人たちが賛同してくれて初めてこの作品ができたはず。そのなかには年老いた夫婦のなれそめや、商店の昔の興隆と今の衰退の現実を語ったものもありました。ありのままの現在を赤裸々に語ることで、町全体が一つの物語になっていました。そのなかの一つの、老夫婦の営む昭和30年代の雰囲気のある食堂でどんかつを食べ、タイムスリップしたような不思議な体験でした。他にも魅力的な蕎麦屋や食事処があり、次回もう一度ぜひ行ってみたいと思っています。

この県北芸術祭は大地の芸術祭に負けないくらい広い地域を使つて開催されました。今回は山側の一部だけでしたが、車で移動しながらその風景や地域の様子を楽しみ、作品との出会いを楽しむことができました。「いちほらアート×ミックス2017」はほぼ廃校を使つての開催となり、空き家や川や湖や空き地といった里山の特徴や魅力的な場所が活用されません。1教室1人の作家の作品という枠組みがほとんどなくなつてしまつと地域全体での魅力発信、地域の人を巻き込んだ協働作業などが弱くなってしまうのではないかと少し残念です。

しかしながら、私たちが住むこの地域内で芸術祭は開催されるのですから、この利点を十分に活用して地域の魅力を発信し、積極的に関わって大いに楽しもうと考えています。

（従夫里山通信員）

## 里山の冬の情景



いちほらクオードの森

2016年の恒例のイルミネーションの飾りつけが行われました。一番大きな場所としては月崎のクオードの森で、一段と鮮やかに輝



月崎駅

いていました。夜の山々の紅葉風景を、LEDの光によつて表現しているようにも思えました。通常は真掃を植えてある場所に装飾を施して、そこに水を張つたために光が倍になり美しくも増幅されていきました。



イルミネーション列車内

管理者の安由美会の方々が時間をかけ工夫を凝らし、みんなに楽しんでもらおうとする気持ちがよく表れた作品となつています。2020年の東京オリンピック開催応援のための装飾も施されていきました。



月崎駅

小湊線沿線の馬立以南の各駅でも、それぞれの駅を担当するボランティア団体によつて思い思いの工夫が凝らされ多くの訪れる人々を楽しませていました。実はイルミネーションの飾りつけは思っている以上に時間がかかります。それぞれに思いが込められることがよくわかります。



里見駅

（従夫里山通信員）



元旦の高瀬神社に多くの人が

酉年の今年の正月は天気恵まれ例年になく晴天で穏やかな日が続きました。高瀬神社も大みそかの夜から松の内はたくさん参拝客でにぎわいました。恒例の葦の組合のはしご乗りも、突き抜けるような澄み切った青空に映えて、見事な技を披露してくれました。



青い空にだれよりも高く

43回目を数える高瀬湖マラソンが1月14日に開催されました。今年のエントリーは北海道から長崎までの2465人。今年一番の寒波に見舞われたこの日、開会式時点では晴天であつたものの、スタート時に曇り始め空気がどんどん冷えてきました。選手たちははものどもせず躍動感ある走りを見せてくれました。



小中学生の迫力あるスタート

今年も又たくさんスタッフがこの大会を支えました。救護の体制も万全を期し、多くの人材が配置されました。



ハーフマラソン スタート直後

（従夫里山通信員）

# マリンバスの沿線(1)

昨秋、小湊鉄道の養老溪谷駅から亀山湖を経由して、JR久留里線の久留里駅を結ぶバスが運行されました。期間途中にけがれ崩れて亀山ダム経由ができなくなりしましたが、これまで交通の連絡がなかった地域をつなぎ、観光振興につなげる試験運行はある程度の成果が得られたようです。

アンケート調査によると、東京、神奈川などの県外観光客の利用も多く、小湊で五井から下り、久留里線で木更津に帰るといったような周遊観光のルートができそうな状況です。

また、バスルートの沿線では観光関連の事業者が会議を持ち、沿線の観光振興に知恵を集約する動きも出てきました。これは過去にない動きです。

期間中に市議会の有志と視察をしてきましたが、久留里駅では古い商人宿を君津市が借り上げてトイレなどを改修し、若い人たちがお店を開く取り組みをしていました。これがなかなか面白く、鑑の試着体験や酒蔵見学も含めて半日ほど楽しめました。お客さんも途切れることなく訪れていて、久留里の商店街を若い人が周遊する姿が見られました。この後、テレビ番組が2本ほど久留里を取り上げていました。ただの偶然でしょうか。



養老溪谷駅周辺でも宝林寺の千葉住職による座禅体験をはじめ、駅前マルシェ(テントでの露天販売)市民の森や各駅のイルミネーションなど一日かけての視察になりました。現在、アートミックス期間中のバス運行に向けて、市原市と君津市、大多喜町と協議中ですが、今年の

春・秋の運行が実現できそうです。

君津の「農溝の滝」や小湊のトロッコなど観光の芽は確実に生まれています。

一時的なブームで終わるのか、これをチャレンスに観光の魅力を加えるのか、今がその時期ではないかと捉えています。それぞれの地域が競い合って、周辺の魅力を向上させていけば観光地としての魅力がもっと発揮されるのではないのでしょうか。

ちなみに、農溝の滝には、平日でも観光バスが連なり、小湊鉄道も観光客の増加で昨年は例年に比べ、5万人の増客だそうです。新しい取り組みとして市原バスターミナルでは高速バスとレンタカーを使った国土交通省の観光振興に向けた社会実験も始まります。



内を一巡り。次に繁葉(きょうざん)で肩を打ってもらいます。合掌低頭(がっしやうてい)静かな時間が流れる。鐘が鳴り、合掌低頭(がっしやうてい)左右揺振(さゆうようしん)をして組



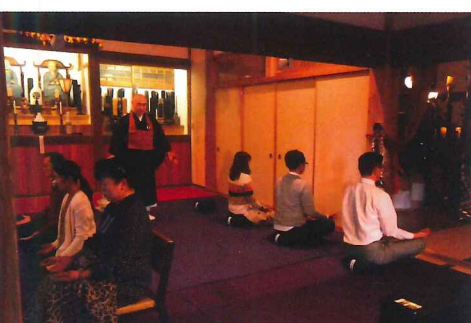
種姫のお墓は向かって左側に

## 宝林寺座禅体験

(天曾根R里山通信員)

昨秋に市原市と君津市の連携による新たな観光ルートの開拓に向けて、小湊鉄道養老溪谷駅とJR久留里駅を結ぶ沿線バス『房総さくらGO』の実証運行が行われました。この運行に伴い、養老溪谷駅周辺観光メニューの目玉として宝林寺での座禅体験が開催されました。千葉公慈住職は、駒沢女子大学教授、いちほら観光大使であり、テレビ番組『ぶっちゃけ寺』にも出演されています。

座禅とは仏教で姿勢を正して坐った状態で精神統一を行う禅の基本的な修行法とあります。皆さん緊張して待っていると、千葉住職から「こやかに流れを説明していただき座禅の場所まで移動します。時間は大体20分くらい、合掌低頭(がっしやうてい)・挨拶をしてから姿勢を整え、体を左右に揺らし、体の軸をまっすぐにします。座禅の姿勢が整ったら、静かに大きく深呼吸をします。座禅の始まる鐘が鳴らされ、住職が堂



座禅を組む市議会有志の皆さん

座禅とは仏教で姿勢を正して坐った状態で精神統一を行う禅の基本的な修行法とあります。皆さん緊張して待っていると、千葉住職から「こやかに流れを説明していただき座禅の場所まで移動します。時間は大体20分くらい、合掌低頭(がっしやうてい)・挨拶をしてから姿勢を整え、体を左右に揺らし、体の軸をまっすぐにします。座禅の姿勢が整ったら、静かに大きく深呼吸をします。座禅の始まる鐘が鳴らされ、住職が堂内を一巡り。次に繁葉(きょうざん)で肩を打ってもらいます。合掌低頭(がっしやうてい)静かな時間が流れる。鐘が鳴り、合掌低頭(がっしやうてい)左右揺振(さゆうようしん)をして組んで足を解きます。挨拶をして座禅が終わりになります。これから休憩をはさみ千葉住職のお話が始まります。

発見や驚きがありました。※今回の座禅体験は『房総さくらGO』の観光メニューとして企画されましたので直接の問い合わせは「遠慮ください。\*参考資料 曹洞宗 宝林寺住職 千葉 公慈『南総里見八犬伝』と宝林寺の種姫物語 曹洞宗坐禅の作法 (天曾根R里山通信員)

## 魚屋の戯言 牡蠣(かき)のつと

牡蠣の美味しい季節になりました。東日本大震災で産地が壊滅的な被害を受けた事で、ここ5年ほどはいい牡蠣の入荷が多くありませんでした。それが今シーズンは一転して大ぶりの剥き身が出回っています。

只、さすがに量は少ないうえ、地震以前は2kg入りだった荷主の製品もほとんどが1kg入り姿に変えています。

牡蠣の剥き身は大きく二種類に分けて売られています。ひとつは生食用であり、もうひとつは加熱調理用。売り場に並んでる牡蠣は必ずこの表示がなされてるはず。

多くのお客さまに言われるのが次の言葉です。「生食用の牡蠣の方が加熱調理用のより新鮮なんでしょう?」

生で食べるんだから加熱用よりも鮮度が重要視されてるだろうとお考えになる気持ちはよく分かりますが、実はこの二種類の差は鮮度ではありません。違うのは陸から海まで運ばれた期間です。生食用が育つのは陸から海まで運ばれた期間です。加熱調理用の方は陸に近い海域で育てられています。理由は雑菌の数で、岸から離れた沖に行けば行くほど海水に含まれる雑菌が少なくなります。同時にエサになるプランクトンや栄養になるものが少なくなりま



いちほらクオードの森

反対に岸や河口に近い海域ではそれらがたつぷりあるので十分に栄養分を身にまとった美味しい牡蠣に成長してくれるのです。鍋料理やフライ、炊き込み飯などの料理には栄養が行き渡ったフリプリの加熱調理用の方が向いているのはいくらでもありません。でもいくら美味しうだからと言って加熱調理用と表示されているのを生で食べてやろうなどは絶対思わないで下さい。生食用の牡蠣はそれぞれの産地の保健所が厳しい水質検査を実施して合格できたものだけが生食用として出荷され、更に紫外線による殺菌をして安全に召し上がって頂けるように細心の注意を払った

## 私事ながら

私事で大変に恐縮ですが去年の夏前から少々厄介な病気を患ってしまい、現在週3日は病院で治療を受けることを余儀なくされています。当初は1〜2回休めばまた続けられると甘く考えていましたが、1回の治療に6〜7時間かかる事と体力的な問題もありこの連載を続けるのが困難な状況になってしまいました。

里山通信創刊以来続けて来た魚屋の戯言ですが、一区切りつけざるを得ないとの考えに至り、今回を最終回にさせて頂きたく思います。魚屋の戯言は終わりますがそれぞれの名物コーナーはまだまだ続くのでお楽しみに……。魚屋が書き散らかした面白くもおかしくもない駄文に14年間もお付き合い下さった事に心から感謝致します。本当にありがとうございました。(鈴木里山通信員)

人と環境が一体となって大切な未来へ  
自然環境と人間との調和を目指して

**杉田建材株式会社**

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311  
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511  
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111

URL <http://www.sugita-group.com/>

# おめでとう！ 輝け！加茂の新成人

1月8日（日）加茂公民館体育館において、来賓、市長代理の教育総務部長、多くの家族に見守られながら、加茂地区成人式が和やかに開催されました。今年、加茂地区の新成人は42名、うち38名の出席を得ての式典でした。携帯をいじるでもなく、おしゃべりをするでもなく、背筋を伸ばして式典に臨む姿は立派なもので、きつと素晴らしい社会人に育っていくだろうことが予感されました。加茂の新成人の皆さんに「大きな幸あれ」と祈るばかりです。

（大曾根下里山通信員）



祝 加茂地区成人式  
おめでとう！そしてがんばれ！

## 市原商工会議所便り 年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。  
旧年中は、格別のご厚情を賜り厚くお礼申し上げます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。  
加茂地域の方々のみならず多くの方々から大変支持されている「加茂里山通信」を、継続して発行されて

## 寒中お見舞い申し上げます

市原商工会議所加茂支部  
支部長 征矢貫造  
役員一同

お買い物は地元の商店で  
市原商工会議所  
会頭 榊原義久

いることに対し、大変な敬意を表し、一愛読者としてこれからも地域の情報をタイムリーに伝え続けていたきたいと思ひます。  
さて、現在の景気は緩やかな回復基調が続いていると言われておりますが、地域の経済は依然として厳しい状況であると言わざるを得ません。  
このような状況下、市原商工会議所では会員企業と一体となった伴走型支援に、本年はこれまで以上に力を注ぎます。金融支援・各種補助金申請・販路開拓支援等あらゆる業務を通じて、経営課題の解決に努め、経営の入口から出口までをサポートすることで、会員企業の強化を図ってまいります。  
また数年前から地域活性化を目的に取り組んでおります「いちほら国府ブランド」をさらに充実したものとすため、あらゆる機会を捉えPRに努めてまいります。

これからも市原商工会議所は「Challenge to the Innovation 変革への挑戦」～企業の経営基盤強化と地域振興の推進～を宣言業に、まちの元気づくり運動に役職員一丸となり取り組んでまいりますので、本年も皆様の一層のご支援、ご協力を心からお願ひ申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

（市原商工会議所会頭 榊原義久）

## 宝船プレゼント

今年も読者の皆様に、宝船のプレゼントです。

- 「大当たり賞」 3名様
  - 「お年玉賞」 7名様
  - 「超目玉賞」 6名様
- 計16名様に当たります。  
みなさん奮って応募ください。

住所・氏名・電話番号と  
里山通信への「意見・感想」を添えて「宝船希望」と明記してハガキで応募ください。



T2900081  
市原市五井中央西1-22-25  
市原商工会議所  
「加茂里山通信プレゼント」係まで  
締め切りは2月10日 当日消印有効

当選の方には直接ご連絡いたします。  
賞品の引き渡し式は  
2月19日（日） 午前10時  
月崎の商工会議所加茂支部前で行います。  
取りに来られない方は無効になりますのでご了承ください。

当選確率は高く豪華  
賞品がそろっています  
ふるってご応募ください



- 宝船プレゼントの協賛店・協賛企業は次の通りです
- 角屋商店
  - 川口屋
  - 杉田建材
  - 鈴木魚肉店
  - 太陽工業
  - 高山商店
  - デリーヤマザキ市原高滝店
  - 旅館 加茂城

次回は4月25日発行予定です。

## 編集後記

最高の情景を芸術祭に来る人たちにもぜひひ見てもらえたらと思つています。  
・昨年、多くの方に協力いただきタケノコを福島県いわき市に持って行きました。昨年の新年号にはその募集予告記事を書きましたが今回は載せる必要がなくなりまして、いわき市の方から子供たちが「こちらにやってきました、タケノコを自分たちで掘っていく」という話が進んでいます。いわき市と加茂地区の交流が深まろうとしています。これを進めているのは五井の「有志の会」の藤田君です。  
・いよいよこれから寒さのピークを迎えます。どうかご自愛下さい。  
（征矢里山通信員）



飯給馬車

・明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。  
・今回のカラー版はいかがだったでしょうか？カラー化は財政的になかなか難しいと以前に述べたことがありますが、しかし、問題をクリアして今回よりすべてカラー版で発行いたします。これまでもこの写真はぜひカラーで印刷したいなと思つたことは何度もありましたが、小さな写真でもカラーの持つ力は絶大です。イルミネーションの鮮やかさを伝えることができたのではないかと思います。  
・今年の芸術祭は4月8日に始まります。年度をまたがないというつもりですが、ソメイヨシノの桜がピークを過ぎている可能性が高く、菜の花と桜のコーラレーションの最高のタイミングを逃しそうなのが残念です。満開の菜の花と桜の中をトロトロ列車が走る加茂地区ならではの

情報提供、取材依頼はお近くの通信員へ。  
メールでも受け付けます。  
記事に関するご意見、お問い合わせは左記へ。  
市原商工会議所  
0436(22)4305 担当 河崎  
Eメール kawasaki@i-cci.or.jp

房総・養老深谷の  
地酒お土産は  
養老深谷駅前  
**角屋商店**  
養老深谷観光協会窓口  
市原市朝生原181  
TEL0436-96-1108  
FAX0436-96-0052

愛車のある幸せな暮らし  
応援します！  
安全・安心  
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店  
**小茶自動車**  
市原市石神227  
TEL0436-96-0482  
FAX0436-96-1293

皆様と共に歩む観光  
ワカサギ釣り絶好調！  
高滝湖観光企業組合  
TEL 0436-98-1277